

# 血液内科／膠原病内科



血液内科動画



膠原病内科動画



診療科 HP



## 1. スタッフ

診療科長(教授) 安永 純一朗  
講師 1名、  
特任講師 1名、助教 4名  
特任助教 3名、医員 12名

## 2. 診療科の特徴、診療内容

当科(旧第二内科)は、これまで医学史上多くの顕著な成果を挙げてきた。高月清元教授により成人T細胞白血病(ATL)が独立した疾患として提唱され、その原因ウイルスであるHTLV-1が発見された。骨髄異形成症候群や腎性貧血などの治療に画期的であったエリスロポイエチンは宮家隆次博士によって当科で精製され、後に米国に渡った同博士によりその生物学的特性が初めて明らかになった。満屋裕明元教授は世界で最初の抗エイズウイルス薬であるAZTを開発し、その後、ddI, ddC, darunavirなども開発しエイズ患者の予後を著しく改善した。また松岡雅雄前教授はATLにおいてHTLV-1のHBZタンパクによる発がん機構を明らかにした。2024年1月に安永純一朗教授が着任し、新体制で診療にあたっている。

入院患者は、約8割が血液疾患、約2割が膠原病、感染症、免疫不全疾患などで占められている。日々進歩、変化する標準治療法を速やかに導入すると同時に、全国の臨床治療研究や新規薬剤の治験にも積極的に参加しより良い治療の提供を目標としている。

## 3. 診療体制(令和5年度)

### ○外来診療体制

	月	火	水	木	金
血液内科	上野 徳永 河野 樋口	内場	松岡 川口 米村 立津 河野 樋口	野坂 安永	野坂 岩永 遠藤
膠原病内科	平田 宮川	岩倉 水橋	平田	坂田	坂田 宮川

### ○病棟診療体制

曜日	午前	午後
月	病棟業務・外来処置	グループ回診
火	教授回診 医局会	リサーチカンファレンス 移植カンファレンス リンパ腫カンファレンス 膠原病カンファレンス
水	病棟業務・外来処置	骨髄腫カンファレンス
木	病棟業務・外来処置	形態カンファレンス
金	病棟業務・外来処置	

## 4. 診療実績

○疾患別の患者数 (令和5年度入院患者)

### ●血液内科

### ●膠原病内科

疾患	初診	総数	疾患	初診	総数
急性骨髄性白血病	9	16	全身性エリテマトーデス	16	29
急性リンパ性白血病	8	14	多発性筋炎、皮膚筋炎	16	18
骨髄増殖性疾患	1	2	関節リウマチ	6	9
骨髄異形成症候群	5	8	成人 Still 病	6	7
悪性リンパ腫	73	138	IgG4関連疾患	6	6
成人T細胞白血病	9	20	混合性結合組織病	6	6
多発性骨髄腫、形質細胞腫	15	24	ANCA 関連血管炎	5	7
原発性マクログロブリン血症	2	3	強皮症	2	2
AL アミロイドーシス	6	9	結節性多発動脈炎	1	2
再生不良性貧血等貧血	3	6	ベーチェット病	1	2
特発性血小板減少性紫斑病等	5	7	高安動脈炎	1	1
血友病	1	1	その他	11	14
その他	15	23			

### ○主要な疾患の治療実績(成績)

急性白血病: 令和5年度は、急性白血病患者に対する寛解導入率は80%であった。他施設からの紹介を受け移植までの橋渡し治療も行っている。

慢性骨髄性白血病: imatinib 15例, nilotinib 25例, dasatinib 18例, bosutinib 6例, ponatinib 2例で良好な反応が得られ、14例が長期に無治療寛解を維持している。

多発性骨髄腫、AL アミロイドーシス: 令和5年度は初発の多発性骨髄腫患者と全身性 AL アミロイドーシス患者の合計 21 例に化学療法を開始した。自家末梢血幹細胞移植療法を4例で行った。

悪性リンパ腫、ATL: JCOG などの医師主導臨床試験や臨床治験を積極的に行なっている。令和5年度は例年通り悪性リンパ腫や ATL 患者に対して治療を行った。また、10例に対して、キメラ抗原受容体遺伝子導入T細胞(CAR-T)療法を行った。

移植: 令和5年度は14例に同種移植を施行した。血縁間末梢血幹細胞移植が11例(含HLA半合致移植10例)、非血縁者間骨髄移植が0例、非血縁者間末梢血幹細胞移植が3例、臍帯血移植が0例であった。

膠原病: 令和5年度は総外来受診患者数 7,630 人で、入院延べ患者数 3,020 人であった。関節リウマチ、全身性エリテマトーデス等から希少疾患、重症病態まで幅広い診療を積極的に行なった。

## 5. 高度先進的な医療の取組

成人T細胞白血病・リンパ腫に対するインターフェロンα/ジドブジン併用療法と Watchful Waiting 療法の第Ⅲ相ランダム化比較試験を行っている。

## 6. 臨床試験・治験の取組

臨床研究：急性白血病は JALSG に、悪性リンパ腫は JCOG にそれぞれ参加し、他大学を含めた多施設共同臨床研究を行っている。令和 5 年度は、主に以下の臨床試験・治験を実施した。

1. 造血幹細胞移植が適応とならない未治療の多発性骨髄腫患者を対象に isatuximab とボルテゾミブ・レナリドミド・デキサメタゾン併用療法の臨床的有用性をボルテゾミブ・レナリドミド・デキサメタゾン併用療法と比較する多施設共同、非盲検、ランダム化第Ⅲ相試験
2. 新たに診断された多発性骨髄腫患者を対象として自家幹細胞移植後の iberdomide 維持療法をレナリドミド維持療法と比較評価する第 3 相、2 ステージ、ランダム化、多施設共同、比較対照、オープンラベル試験
3. 再発又は難治性多発性骨髄腫患者を対象として teclistamab とダラツムマブ皮下投与と製剤の併用 (Tec-Dara) とダラツムマブ皮下投与と製剤、ポマリドミド及びデキサメタゾン (DPd) 又はダラツムマブ皮下投与と製剤、ボルテゾミブ及びデキサメタゾン (Dvd) を比較する第 3 相ランダム化試験
4. 再発又は難治性の多発性骨髄腫患者を対象としたヒト化 GPRC5D×CD3 二重特異性抗体 talquetamab の第 1/2 相、first-in-human、非盲検、用量漸増試験
5. AL アミロイドーシスにおける ABBV-383 の安全性及び有効性を評価する第 1b 相非盲検試験
6. 日本人再発 難治性成人 T 細胞白血病・リンパ腫患者を対象とした Rpeginterferon  $\alpha$  2b (P1101) の有効性及び安全性を評価する第 3 相、単群、多施設共同試験
7. 未治療 CD20 陽性 B 細胞性濾胞性リンパ腫患者に対する IDEC-C2B8-SC 試験
8. 前治療歴のある BTK 阻害剤未投与のマントル細胞リンパ腫患者に対する LOXO-305 (MCL) の第Ⅲ相試験
9. 再発又は難治性の B 細胞非ホジキンリンパ腫患者を対象としてツシジノスタットとリツキシマブを併用投与する第 1b/II 相試験
10. 成人の一次性免疫性血小板減少症患者に対する ARGX-113 PH20 SC 試験
11. 再発又は難治性の T 細胞リンパ腫患者を対象とした BMS-986369 の安全性、忍容性、薬物動態及び有効性を検討する国内第 1/2 相試験
12. 前治療歴のある慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫患者に対する LOXO-305 (CLL/SLL) とベネトクラクス及びリツキシマブ併用の第Ⅲ相試験
13. 未治療の非胚中心 B 細胞びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫を有する 70 歳以下の患者を対象に、アカラブルチニブと R-CHOP との併用療法を検討する第 III 相、無作為化、二重盲検、プラセボ対照試験
14. 慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫患者を対象にピルトブルチニブ (LOXO-305) とイブルチニブを比較する非盲検無作為化第 III 相試験 (BRUIN-CLL-314)

15. びまん性皮膚硬化型全身性強皮症患者を対象とした HZN-825 の安全性、有効性、忍容性及び薬物動態を評価する、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、反復投与、多施設共同試験 (II b)

## 7. 地域医療への貢献

県内外の臨床医・コメディカルに向けて血液・感染症に関する研究会(コロキウム)を症例検討と学外の研究・臨床の最先端で活躍中の先生方の講演という形式で開催した。また、当科医師が患者様向けの公開講座や講演会などの講師を担当し、情報提供や教育に努めている。更に、県内の地域中隔病院に診療医を派遣し、血液疾患・膠原病・感染症の安定した診療の提供を行うとともに診療連携を深めている。

## 8. 医療人教育の取り組み

血液・リウマチの専門医・指導医の育成・専門教育を行うとともに、臨床の疑問を研究する意識を持った“physician scientists”、地域医療を担い幅広い内科診療を行う“総合内科医”、包括的ながん診療を行う“腫瘍内科医”の育成を、研究グループ、多数の関連病院の連携・協力の下で努めている。

## 9. 研究活動

**ATL**：成人 T 細胞白血病の発症機構、病態の解明と治療への応用を中心に取り組んでいる。原因ウイルスである HTLV-1 の病原性を解析し、関連疾患発症における役割を明らかにすると共に、免疫学的な解析にも取り組んでいる。

**白血病**：白血球の分化転換に決定的な役割を果たす転写因子 BCL11B の機能について白血病患者検体および細胞株を用いて解析している。CML については CML-CSG (CML-cooperative study group) として全国多施設共同研究を行っている。

**悪性リンパ腫・多発性骨髄腫**：主なテーマは、発癌のメカニズム解析、病態解析、新規治療法の開発などである。臨床で得られた疑問を実験室で解決すること、最終的に臨床へ還元できる研究を念頭においている。

**移植**：難治性造血器腫瘍に対する同種移植療法の安全性・有効性の向上を目指して、移植後病態解析ならびに新規移植法の開発を行っている。

**膠原病**：「PLEASURE-J」、「統合レジストリによる多発性筋炎/皮膚筋炎関連間質性肺疾患の個別化医療基盤の構築」など多施設共同研究に参加するとともに、当科レジストリの解析、希少疾患の報告により、膠原病診療マネジメントの新たな提案や evidence の構築を目指している。